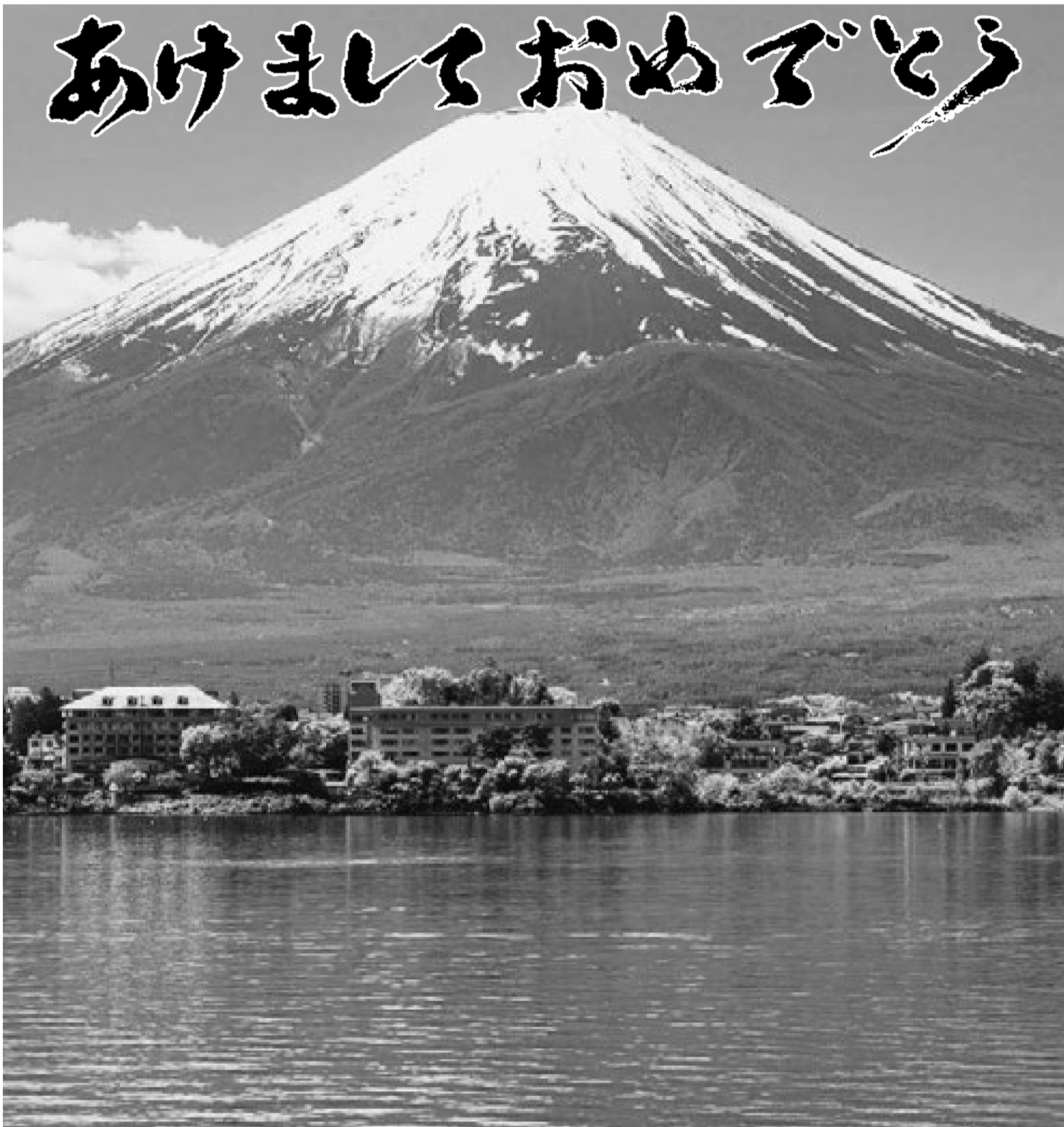


あけましておめでとう



東京都大田区蒲田
5の10の2
全日本港湾労働組合機関紙
(毎月1日発行)
一部20円 (組合員の購読料は組合費の中に含む)
発行責任者
松永英樹



新年明けましておめでとうございます。組合員並びのご家族の皆様には、お健やかに新年を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。



新年あいさつ

中央執行委員長 真島 勝重

日本のように減少する国、医療制度による平均寿命など安易に語れませんが、国際移動が更に加速することは明らかです。

二〇二〇年が始動しました。最初に、私が労働組合専従役員になったのが、二〇〇〇年八月ですので、既に二〇年が経過しました。二〇年前当時、シドニーオリンピックで、柔道では田村亮子、女子マラソンでは高橋尚子の金メダルに感動しました。今年の東京オリンピックはそれ以上に期待を持って待ち望んでいる方も多いと思います。私自身、この二〇年を総括し、年頭に当たり、全港湾の十年後の未来を創造したいと思えます。

昨年実施した全港湾の港湾関係労働条件調査まとめによると、平均年齢が四一歳です。すなわち、国土交通省が提起しているPOR T二〇三〇、十年後に全港湾の多くの組合員が港湾労働の中核として活躍しています。実際に、この二〇年間で、全国大会をみてもわかる通り、多くの中堅層・青年層が参加し、活発な議論を展開しています。二〇〇〇年十一月に港湾運送事業の規制緩和が実施され、事業免許制が許可制に、認可料金制が届出制に改められ、当時、私は多くの港運事業者が淘汰されると思い、将来の不安ばかりでした。しかし、今日に至るまで、産業別労働運動の力により守られていること、このことに労働運動の将来を感じています。

次に近年、港湾に限らず、すべての分野で労働力不足が叫ばれています。しかし、世界規模で見ると、国連の発表では、世界人口の増大がやや鈍化し、二一〇〇年頃に十億人で頭打ち、すなわち、やっとピークを迎えると予測しています。これらは、増加する国と

一方、国内における女性の社会進出が経済協力開発機構加盟二九カ国中において、働く女性のための環境は二八位です。今の男女における雇用格差がなくなり女性の社会進出が加速すれば、労働人口は八百人以上増加し、国内総生産も押し上げるといわれています。すなわち、我が国の貿易において、港湾・運輸労働者は、経済・物流の中心的役割を担っており、第一義として、労働力確保のための賃金・労働条件の向上はもちろんのこと、女性が活躍できる場を労働組合が全力で取り組んでいかなければなりません。当然、AIタ

ーミナルの議論は避けて通ることはできず、主役は労働者、AIは補完作業であることを基本に運動を構築しなければならぬこと、そして、青年層や女性の運輸産業への進出を如何にして実現できるのか、共に悩みながら前進していかなければなりません。

私たちは魅力ある運輸産業、自信と誇りに満ちた職場を労働運動の基軸として、次の世代につなげるべく展開していかなければならないことを新年にあたっての決意として述べさせていただきます。

最後に二〇二〇年の干支は子年(ねどし)で、正確には庚子(かのえ・ね)です。庚子の変化が生まれる状態、全く新しいことに挑戦することに適した年といえます。「なせば成る なさねば成らぬ 何事も 成らぬは人のなさぬなりけり」です。組合員、執行部が一丸となって活発な議論を展開していくことを誓い、全港湾の歴史と伝統を継承し、発展していくよう、本年もよろしく願っています。